

第438回白石市議会定例会 一般質問通告書

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	13番 高子秀明	<p>1. 台風19号の影響について</p> <p>(1) 甚大な台風被害により、来年度に作付不能な農地(水田・畑・果樹園・花卉など)に関して、その栽培品目別の農地面積を把握しているのか伺う。</p> <p>(2) 畜産関係(和牛・乳牛・養豚・養鶏など)の台風被害に関して把握しているのか伺う。</p> <p>(3) 指定避難所開設後、市内数カ所に自主的な避難所を設けた地区があるが、把握しているのか伺う。</p> <p>(4) 今回の台風19号並み、あるいはそれ以上の大雨の予測がある場合、今後、避難所設置に関して改善が必要と考えるが、本市の意向を伺う。</p>	市長
		<p>2. 白石市中学生議会の開催における成果について</p> <p>市内4中学校、21名の中学生議員から合計35件の質問があった中で、今後本市として取り組む可能性がある質問や要望があったのか伺う。</p>	市長 教育長
		<p>3. 本市の教育現場の状況について</p> <p>(1) 今年度に入り、各公立小中学校における児童・生徒及び教職員が関わるいじめ問題などの報告は、教育委員会にどの程度報告され、どのような対応をしているのか伺う。</p> <p>(2) いじめ問題の再発や予防に関しての対策を伺う。</p>	市長 教育長
2	12番 四籠英夫	<p>1. 台風19号被害について</p> <p>台風19号により本市は未曾有の被害をこうむりました。1名の方が犠牲となられ、住宅の被害は全壊から一部損壊を含め394棟、427世帯が被災されました。犠牲になられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方には心からお見舞い申し上げ、一日も早い復旧をお祈りいたします。</p> <p>被害の規模は、公共土木施設と農業用施設では764件、20億350万円の被害額となり、その他、農地や公共施設等の被害を加えると、概算被害総額は23億3,800万円になるとの報告がなされました。</p> <p>また、道路網も寸断され、27カ所が通行止めとなりました。大部分は通行ができるようになりましたが、依然通行止めの道路もあり一日も早い復旧が待たれます。</p> <p>想定外の雨量、経験したことのない豪雨に対し、市当局は災害発生が予想された時点で災害対策本部を設置し、山田市長みずから陣頭指揮をとり、災害対策本部に泊り込むなどの態勢で臨まれました。職員も休日返上で被害確認と被災者の救済に当たるなど、献身的な努力をされたことに心から敬意と感謝を申し上げます。</p> <p>そこでこの度の災害を振り返り、以下の点についてお尋ねいたします。</p> <p>(1) 災害への対応で反省点があれば伺いたいと思います。</p> <p>(2) 近年は異常気象を通り越し、気候危機とも言われ、極度</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
2	12番 四 竈 英 夫	<p>の集中豪雨・異常高温・台風の強大化・海水温の上昇などにより、災害の規模が大きくなっています。こうした状況を踏まえ、今後どのような対策を講じていくお考えかお伺いいたします。</p> <p>(3) 国道113号は、山側ののり面の崩落と道路の陥没により大規模な災害となり、全面通行止めが続いております。これにより通勤通学、郵便を初めとする物流関係、旅館ホテル等のサービス業は大きな打撃を受けております。復旧作業には突貫工事に取り組んでいただいているとのことですが、本市としてどのような要請をしておられるのかお伺いいたします。</p> <p>また、復旧の見通しについておわかりであればお知らせ下さい。</p> <p>(4) 道路の損傷により通行止め箇所が多数発生しましたが、今後災害が発生した場合、迂回路の対策はどのようにお考えかお伺いいたします。</p> <p>(5) 現在、迂回路として通行している区間の冬期間の除雪態勢と交通事故防止対策についてお伺いいたします。</p> <p>(6) 水道管の損傷により、飲料水・生活用水に支障が出た場合、市の水道では早急な対応が図られておりますが、個人で引いている水道、水道組合など任意の水道についても、何らかの対応が必要と思われませんが、いかがでしょうか。</p>	市長
		<p>2. 小規模特認校(小原小中学校)の学校経営について</p> <p>小規模特認校制度とは、市教育委員会から指定を受ければ、保護者や本人の希望により、住居を変更しないでどこからでも転入学できる制度です。つまり、学区内に引っ越さなくても入学できる制度で、小原小中学校ではこの制度を取り入れています。</p> <p>学校の方針として、個人指導により学力を向上させたい、小集団の中で自分の良さや個性を発揮させたい、地域の特性を生かした特色ある教育活動により豊かな人間性を育みたいという希望の児童・生徒を募集しています。</p> <p>現在の児童・生徒数は、小学校が14名、中学校が16名となっており、児童・生徒数の減少が課題となっています。このことに伴って、学力の低下や人・物・事にかかわる力の低下、家庭教育力の低下などが問題となっています。</p> <p>これらに対して、やりぬく力・かかわる力・学ぶ力をつけるために、①地域と一体となった運動会・文化祭、②精神修養のための弓道体験学習、③全員の力を結集した太鼓の演奏、④タブレット1人1台学習などを取り入れています。</p> <p>令和2年4月から学校名を「小原学園」という愛称にして、小規模校、小中一貫校のメリットを生かしてきめ細やかな個別指導と豊かな体験活動により、子供一人一人の自己実現を図り、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育成したいとしています。</p> <p>こうしたさまざまな創意工夫をこらし、今後の学校経営に取り組んでいきたいという教育方針に対して、本市の考えをお聞かせ下さい。</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
2	12番 四 竈 英 夫	<p>(1) 小規模特認校として、どのような支援をして行くお考えでしょうか。</p> <p>(2) 地域外の学校に対しての働きかけをしていくお考えはあるのでしょうか。</p> <p>(3) 特色ある教育を取り入れるために、和紙づくり体験、弓道体験授業、太鼓演奏などを取り入れていますが、講師謝礼や諸経費についての支援を行うことはできないでしょうか。</p> <p>(4) 現在、第六次白石市総合計画の策定が進められておりますが、教育の重要性に鑑み、小規模特認校の経営のあり方について、計画の中に取り入れるべきと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>3. 仙南地域広域景観計画について</p> <p>宮城県が進めている「仙南地域広域景観計画（マスタープラン）」は、それぞれの地域が持つ固有の自然環境や人々の営み、地域に根付いた歴史文化など、地域独自の要素が相まって形成している地域の「景観」を観光資源として生かそうとするものです。</p> <p>計画は仙南2市7町を包括したものとなっており、本市にかかわるものとしては、白石城を中心とした益岡公園、沢端川の清流、天然記念物の材木岩、スパッシュランドパークの芝桜、小原碧玉溪等が上げられると思います。こうした豊富な観光資源を生かし、本市を訪れる交流人口の拡大を図ることは重要なことだと思います。</p> <p>そこで次の点についてお尋ねいたします。</p> <p>(1) この計画に対し、本市はどのようなかわり合いを持って行くお考えかお尋ねします。</p> <p>(2) 本市の観光スポットに対する定期的なチェック、例えば案内板の補修、トイレや水道の点検、破損したポスターの張りかえ等々、きめ細やかな対応がなされているのかお尋ねします。</p> <p>(3) 計画の重点区域として小原温泉地区、鎌先温泉地区、白石中心部地区が上げられていますが、小原・鎌先地区とはどのような連携を図るお考えかお尋ねいたします。</p> <p>(4) 隣接する七ヶ宿町との連携は、どのように図るお考えでしょうかお尋ねします。</p>	市長 教育長
3	2番 佐 藤 龍 彦	<p>1. 水門の管理について</p> <p>10月12日に関東地方に上陸し、翌13日にかけて関東、甲信、東北地方を中心に全国各地に甚大な被害をもたらした台風19号は、本市にも記録的な大雨と大きな被害をもたらしました。市内でも床上、床下浸水など多くの市民の皆さんが被害を受け、生活の再建に努力されています。</p> <p>水害から市民の皆さんの生命、財産を守る存在として、市内には多くの水門があります。その水門について、市民の皆さんから日常的な管理状況、台風接近などにより大雨が予想されるような時に、緊急な対応が必要となった場合は、どのように対応されているのかといった声が寄せられたことか</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	2番 佐藤龍彦	<p>ら、次の点についてお聞きいたします。</p> <p>(1) 本市の水門の管理状況について、(開閉等)どのようになっているのか伺う。</p> <p>(2) 水門管理の課題について伺う。</p> <p>(3) 本市は今回の台風接近時、水門についてどのように対応されたのか伺う。</p> <p>(4) 水門管理について、(緊急時)本市は今後どのように対応していく考えなのか伺う。</p>	市長
		<p>2. 教員の労働環境及び教育環境について</p> <p>第437回定例会質問以降の本市における教育環境、教職員の労働環境について引き続きお聞きいたします。</p> <p>また国会で多くの反対意見がある中、「教員の変形労働時間制」が導入されることとなりましたが、本市の考えについて伺います。</p> <p>(1) 「教員の変形労働時間制」導入についてどのように考えているのか伺う。</p> <p>(2) 「働き方改革委員会」による検討結果について伺う。</p> <p>(3) 本市の給食費の公会計化実施について伺う。</p>	教育長
		<p>3. 市政懇談会について</p> <p>12月1日に市民の皆さんとともに、よりよい白石をつくり上げていくためとして「市政懇談会」が開催されました。</p> <p>市長の希望で実現したとのことですが、次の点について伺います。</p> <p>(1) 市政懇談会を開催するに至った経緯を伺う。</p> <p>(2) 市政懇談会を開催しての市長の感想を伺う。</p> <p>(3) 2つのテーマについて、市民の理解が進んだと考えているのか伺う。</p> <p>(4) 今後も市政懇談会を開催する考えはあるのか伺う。</p>	市長
4	11番 佐久間儀郎	<p>1. タイムライン（事前防災行動計画）について</p> <p>大型台風19号豪雨は、県内外に甚大な被害をもたらしました。今回の水害をきっかけに、地球温暖化で雨が激しさを増し、過去の経験を上回る現象が起きていることを誰もが強く認識したと思います。本市においては尊い命が犠牲になりました。ご遺族には、心から哀悼の意を表し、また種々被災された方々にお見舞いを申し上げます。</p> <p>行政当局においては、気象庁の警報発表と連動しながら、まず「避難準備・高齢者等避難開始」のエリアメールを発信し、災害対策本部を設置したあと、適時に「避難勧告」、そして土砂災害警戒情報により「避難指示（緊急）」を発令しています。いち早く避難所を開設して市民の生命を守るため一連の対応をされました。緊迫した警戒体制は、夜を徹したものとなり、翌朝台風が海上に抜けていくことで、随時に避難にかかる解除がなされたものと承知しています。</p> <p>改めて当局の精励に対して、敬意と感謝を申し上げます。</p> <p>さて、台風の後、河北新報社と東北大学災害科学国際研究所による台風19号豪雨の被災者アンケートが実施され、その</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
4	11番 佐久間 儀 郎	<p>結果が先月13日に報道されました。宮城県北(大崎市鹿島台、大郷町)と宮城県南(丸森町)との災害リスクの比較では、①県北は過去の被害体験や伝承、避難訓練からリスク認識が高く、災害文化が根付いていた。そのため、②避難行動においては、県南は自宅の2階などにとどまる「垂直避難」が多かったのに対し、県北は避難所などに移る「水平避難」であったことの違いが出たこと。そして、③台風の規模が大きく行政の想定を大幅に上回り、過去の教訓が適用しにくくなっており、体の不自由な災害弱者への対応に課題を残したと分析しています。</p> <p>災害の規模が大きくなればなるほど、救助する側のマンパワーは手薄になります。本当に助けが必要な災害弱者に対して救助を集中させるためには、逃げられる人は事前の避難を徹底すべきと考えます。</p> <p>それでは以下について、質問をいたします。</p> <p>(1) 地震等の短時間の現象で予測や準備が困難な災害(突発型災害)と違い台風は進路が予測できるため、命を守る行動が取りやすく、災害(いわゆる進行型災害)の発生早い段階で災害関係機関が密接に連携した対応により防災・減災が可能となります。この観点から、国土交通省では2021年度までにタイムライン(事前防災行動計画)策定を求めています。本市では、調査し、計画策定に向けて検討されているのかを伺います。</p> <p>(2) この計画は、災害の発生を前提に防災関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、共有した上、地域防災計画で定められている災害対応を「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理したものです。</p> <p>タイムラインを導入することの効果は、①災害時、実務担当者は「先を見越した早めの行動」ができる、また意思決定者は「不測の事態の対応に専念」ができる、②「防災関係機関の責任の明確化」、「防災行動の抜け、漏れ、落ちの防止」が図られる、③防災関係機関で「顔の見える関係」を構築できると説明されています。</p> <p>私は、本市がぜひ検討会をつくって多くの効果が期待できるタイムラインを策定すべきと考えますが、市長はいかがお考えでしょうか。</p> <p>(3) 災害対応後、防災行動や災害後の対応を継続的に改善・充実していくことは重要なことです。そうした作業にタイムラインが策定されていることで、実際の災害対応の時系列の記録との比較ができ、次の災害に備えた改善策が見出されるようになると思います。そのためにも市独自のタイムラインが必要と思われますが、いかがでしょうか。</p> <p>(4) 4年前の関東・東北豪雨の洪水被害を教訓に、国土交通省等が始めた住民一人一人のタイムラインである「マイ・タイムライン」をつくる取り組みが注目されています。常総市、龍ヶ崎市など鬼怒川流域の市町村が熱心に取り組んでいて、ほかの地域にも広がり、西日本豪雨で被災した倉敷市や浜松市、また、東京都などは今年度から予算をつけ</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
4	11番 佐久間 儀 郎	<p>て講習会を開いたり、教材づくりをしたりして、住民への普及に取り組んでいるようです。</p> <p>「マイ・タイムライン」は、時間的な制約が厳しい洪水発生時に、行動のチェックリストとして、また判断のサポートツールとして活用することで、「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待されています。</p> <p>冒頭申し上げましたが、本当に助けが必要な災害弱者に対して救助を集中させるためには、こうしたツールを生かして、逃げられる人は事前の避難を徹底すべきと考えます。本市も検討してみたいかがでしょうか。市長の所信をお聞かせください。</p> <p>2. 災害復旧事業について</p> <p>本定例会には、台風19号の災害に対応するため多額の復旧事業費が計上されました。災害復旧は、基本的には公共的な施設について従前の機能を回復させるまでであり、それ以上の機能の向上は基本的に災害復旧の範疇を外れるとされています。当局からは、原型復旧が基本であるという説明を受けています。</p> <p>考えてみれば、元の状態であるがために災害が発生したのであります。被災箇所は災害に弱いわけで、また豪雨があったならば、同じような災害が発生するのではないかと、付近の住民からは心配の声が聞こえてきます。そして、工事をするのであれば、同じ災害が発生しないように強固なものにすべきことが望まれます。ただ元に戻すために消えてしまう予算ということでは、本当にもったいないということです。</p> <p>公共土木施設については、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づく国の負担及び国庫補助制度が財源的に確立していますが、負担法に基づく災害復旧費にあわせて、別途に施設改良のための費用を投入することで、効用を増大させ安全度を高めることができる、いわゆる改良復旧事業制度も創設されておるわけです。</p> <p>自然災害の多い我が国では、風水害に限らず災害はまた発生するものです。この際、原型復旧にあわせて、災害に強い施設への改修といったことを含め事業を行うべきであると考えます。そのようなご検討をされているのか、災害復旧に対する市長のお考えを伺います。</p>	市 長
5	18番 松 野 久 郎	<p>1. 農山漁村再生可能エネルギー法の活用について</p> <p>平成25年11月15日に農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律（農山漁村再生可能エネルギー法）が成立し、平成26年5月1日に施行されました。</p> <p>この法律は、農山漁村における再生可能エネルギー発電設備の整備について、農林漁業上の土地利用等との調整を適正に行うとともに、地域の農林漁業の健全な発展に資する取り組みをあわせて行うことにより、農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー発電を促進し、農山漁村の活性化を図るものです。</p>	市 長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	18番 松野久郎	<p>本市においても、各所で再生エネルギー発電の整備が行われていることから質問をいたします。</p> <p>(1) 現在、市内で再生エネルギー発電設備を法人で行っている事業者数及び設置箇所数はどの程度あるのか伺います。</p> <p>(2) 再生可能エネルギーは、地球環境に対して負荷の少ない自然界のエネルギーであり、防災拠点、避難施設等での活用にも期待されています。</p> <p>また、区域における農林業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電による農山村の活性化にも有効です。</p> <p>一方、さまざまな自然災害からの影響も懸念されることから、行政としても区域における施設整備の基本計画の策定も必要と考えますが、いかがか伺います。</p> <p>(3) 農山村の耕作放棄地、山の荒廃による環境悪化、防災リスク増大の懸念に対し、住民・開発企業・行政が協力し合うことでの地域活性化や自治体主導のゾーニング、発電事業者の公募で発電設備導入による農業振興も図ることも可能な「農村漁村再生可能エネルギー法」を本市も適用し、ぜひ活用すべきと考えますが、市長の所見を伺います。</p> <p>2. 人口減少対策について</p> <p>(1) 本市の出生率と婚姻届出を受理した数について、直近の5年間の傾向を伺います。</p> <p>(2) 人口減少への歯止め策として、さまざまな対策を講じてきましたが、その経緯と成果について伺います。</p> <p>(3) 第五次白石市総合計画の「安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまち」づくりに、取り組んでおりますが、本市の待機児童数は41名（10月現在）と受け入れ施設の確保が課題となっております。保育園に入れず、他市町村へ移住した方もいるとのことですが、</p> <p>今定例会で、小規模保育事業所設置事業も議案提出されましたが、現在の待機児童の29%の受け入れしかできません。定住、移住受け入れに取り組んでいる中、待機児童の解消は最緊急の施策が必要と考えますが、市長の所見を伺います。</p>	市長
6	3番 伊藤勝美	<p>1. 台風被害の影響と対策について</p> <p>先の台風19号により、全国的に人的被害、強風による屋根の損壊、大規模停電、土砂災害、河川の氾濫、床上浸水など、大きな被害を及ぼし、本市におきましても多くの被害に見舞われました。</p> <p>今後、地球温暖化が進めば、今回の台風19号を上回る強大な台風が、年に複数日本に上陸する危険性が指摘されています。</p> <p>(1) 今回の台風19号に関して、本市としての災害対応をどう評価しているのか、見解をお聞かせください。</p> <p>(2) 今回の台風19号で得た教訓や課題等、今後に生かす防災対策の取り組みをどのように考えているのか、見解をお聞かせください。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	3番 伊藤勝美	<p>2. 今後、刈田総合病院をどのように支えていく方針なのか。</p> <p>(1) 白石市民の安全、安心を担っている刈田総合病院の置かれている現状について、どのように理解されているのか、市長の所見をお伺いします。</p> <p>(2) 刈田総合病院の経営は、今後ますます厳しくなることが予想されています。白石市長として、どのように見通しているのか、所見をお伺いします。</p> <p>(3) 白石市の厳しい財政状況を踏まえ、病院職員の給与削減とともに、白石市職員の給与削減を行う考えはあるのか、見解をお伺いします。</p> <p>(4) 刈田総合病院に対する出資金、補助金などの繰出金については、これまで年度ごとに、その「算出根拠の説明」を受けてきました。これらは、「国の繰り出し基準」に沿ったものと理解していましたが、市長の所見をお伺いします。</p> <p>(5) 白石市外二町組合の最大出資者である白石市は、今後、刈田総合病院をどのように支えていく考えなのか。 特に、負担金、補助金等の繰出金、財政支援に対する市長の見解をお伺いします。</p> <p>(6) 大河原町長や県南中核病院長は、「刈田総合病院と県南中核病院との経営統合を進めるべき」という持論をお持ちのようですが、白石市長として県南中核病院と刈田総合病院との経営統合に関し、どのように考えているか見解をお伺いします。</p>	市長
		<p>3. 人事行政の運営状況について</p> <p>2014年5月に「地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律(平成26年法律第34号)」が公布されております。この改正をきっかけに、能力及び実績に基づく人事管理の徹底や退職管理の適正な確保への関心が高まっております。</p> <p>それから、地方分権の推進により、国と地方の役割分担が明確化され、地域のことについては、その地域の自治体のみならずからの権限に基づいて決定、実施していくことが基本となっており、その担うべき役割・責任の内容も従来と比べ、本当に大きく変化してきているものと考えます。</p> <p>本市においては、人事に関する公平性と透明性を図るため、職員採用状況や給与、勤務時間など人事行政の運営状況を市民に公表しております。</p> <p>(1) 職員の任用について</p> <p>① 地方行政の抱える課題が多様で複雑なものになりつつある今日、行政職員に対する期待はますます高まり、今後、人材獲得競争の面でも拍車がかかることは必至と言わざるを得ません。人材を確保するに当たり、白石市としてどのような人材を求め、どのような職員像を目指して育成していくお考えなのか、見解をお聞かせください。</p> <p>(2) 人事評価の実施状況について</p> <p>① 本市の人事評価制度に対しての取り組み状況について伺います。</p> <p>② 人事評価制度は、職員の適材適所への配置・昇級や昇</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	3番 伊藤勝美	<p>格・降格などに、適切に反映されているのか所見を伺います。</p> <p>③ 人事評価制度を実施することが、本市にどのような効果が期待されるのか、見解をお聞かせください。</p> <p>(3) 職員の勤務時間について</p> <p>① 人員削減・人員不足などから一人当たりの仕事量がふえ、特定の部署や特定の人に負荷がかかっているのか危惧するところですが、年間の時間外勤務時間は何時間で協定されているのか、また、職場内での仕事の平準化は、日頃どのように図れているのか、お聞かせください。</p> <p>② 労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度については、義務化されているところですが、本市の取り組み状況(ストレスチェック受検率・傾向と対策等)についてお聞かせください。</p> <p>(4) 職員の分限・懲戒処分について</p> <p>① 分限・懲戒処分になった職員数の推移(平成28年から本年まで)と、それぞれどのような理由で処分されたのか、お聞かせください。</p> <p>(5) 職員の服務について</p> <p>① 服務の具体的内容として「服務の宣誓、法令等および上司の職務上の命令に従う義務、信用失墜行為の禁止、秘密を守る義務、職務に専念する義務、政治的行為の制限、争議行為等の禁止、営利企業等の従事制限」など掲げられております。確認として憲法遵守の服務宣誓をなしているのか伺います。</p> <p>(6) 職員の研修および勤務成績の評定の状況について</p> <p>① 職員の研修は、「白石市人材基本方針」及び「白石市職員研修計画」に基づき、庁内研修や宮城県市町村職員研修所などへの派遣研修を実施しているようですが、職員が各研修プログラムを受講することによる具体的な効果と成果について、見解をお聞かせください。</p>	市長
7	16番 菊地忠久	<p>1. 関係人口について</p> <p>「関係人口」とは、定着する「移住・定住人口」でもなく、観光に来た一過性の「交流人口」でもない、その中間に位置する、地域と多様に関わる人々を指す言葉です。地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、関係人口と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることなど、その役割が期待されています。</p> <p>総務省は平成30年度から関係人口創出事業として賛同する自治体を募集し、地域とのつながりの機会づくりや、地域課題の解決等に継続的に関わるきっかけを提供する事業を実施しました。</p> <p>また、令和2年度から始まる「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、4つの基本目標の一つに「地方への新たな人の流れをつくる」があり、その中に関係人口の創出・拡大が掲げられています。</p> <p>(1) 自治体にとって、関係人口をふやす利点は大きいと考え</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	16番 菊地忠久	<p>ますが、所見を伺います。</p> <p>(2) 本市も次期総合戦略や総合計画に明記し、積極的に関係人口をふやす取り組みを行なうべきだと考えますが、所見を伺います。</p> <p>(3) 関係人口拡大への手段の一つとして、ふるさと納税の活用が考えられています。本来のふるさと納税の理念に立ち返れば、本当に気にかけてたいのは返礼品よりもその使途であり、その地域の活性化です。ふるさと納税の寄付者に対して、SNSなどを通じてさまざまな情報発信を行っていくことが重要と考えますが、所見を伺います。</p>	市長
		<p>2. 白石市中学生議会について</p> <p>去る11月23日に、第2回となる白石市中学生議会が開催されました。昨年の第1回に引き続き行われたもので、本年もさまざまな市政課題について中学生議員たちが質問や提言を行いました。各中学生議員は自分が取り組む質問についてよく勉強しており、答弁に対する再質問も多くなされ、とても感心させられました。議論も深まり、中学生議員にとっても、市当局や市議会議員にとっても有意義な機会になったと考えています。</p> <p>(1) 今回の中学生議会について、全体的な感想を伺います。</p> <p>(2) 中学生議員から観光案内看板を撮影したくなるようなデザインにするなど、「白石市インスタ映えコース」創設の提案がなされました。市長も答弁でその整備の必要性を認めておりました。「映え」を意識した観光スポットの整備について、具体的に取り組むべきと考えますが、所見を伺います。</p> <p>(3) また、他の中学生議員から「商店街のシャッターに白石の四季や歴史をテーマに絵を描くことでPRにつながるのではないか」との提案もされました。山田市長は「持ち主などとの調整が必要だが活性化につながる」との認識を示されました。子供から大人まで幅広く募集をかけ、商店街に限らず市内各地に絵を描いてもらえば、こちらも「映え」につながる新たなスポットになると考えますが、所見を伺います。</p>	市長 教育長
		<p>3. 台風19号による災害について</p> <p>台風19号による大雨は、本市にもため池の決壊、道路の冠水、土砂崩れ、住宅への床上・床下浸水等、かつてない甚大な被害をもたらしました。</p> <p>(1) 災害発生時の初動体制について良かった点、あるいは反省すべき点についてどのように検証しているか伺います。</p> <p>(2) 浸水・冠水被害においては、堤防の決壊こそなかったものの下水や排水路でさばききれなくなり、内水氾濫が各地域で発生しました。</p> <p>特にキューブより西側の鷹巣地区や旭町地区において広範囲で浸水被害が起きましたが、発生メカニズムや原因をどう検証しているのか伺います。</p> <p>(3) 宮城県の調査によると、丸森町では住宅地や農地からあ</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	16番 菊地 忠久	<p>ふれた水が堤防の外側から河川に越水して堤防の決壊を引き起こしていたそうです。また、決壊した18カ所のうち16カ所がこれにあたりとみられています。今後の堤防管理・整備について所見を伺います。</p> <p>(4) 今回、「避難中に冠水路で車が水没した」「あっという間に浸水して避難が遅れた」などの事例が多く見られました。本市では「白石市内水ハザードマップ」を作成・配布し注意喚起されていましたが、再度、内水氾濫に対する理解を深め、避難やその周知の在り方を再考する必要があると考えます。市長の所見を伺います。</p>	市長
8	14番 森 建人	<p>1. 台風19号について</p> <p>10月の台風19号は広い範囲で記録的な大雨となり、想像を超える被害が東日本各地で起こりました。白石市でも甚大な被害が発生しました。</p> <p>今回の被害を教訓とし、これからも起きるであろう災害の防災・減災に努めていかなければいけないと思いますが、そこで以下の質問をします。</p> <p>(1) 台風19号被害の要因は、どのようなことと捉えているのか伺う。</p> <p>(2) 台風19号に関する情報発信方法を伺う。</p> <p>(3) 福祉避難所があるのか伺う。</p> <p>(4) 河川の監視カメラがあるのか伺う。</p> <p>(5) 台風19号対応の総括と今後防災減災にどう努めていくのか伺う。</p>	市長
9	17番 佐藤 秀行	<p>1. 「旧白石衛生センター第二事業所」について</p> <p>本事業所は処理対象区域を白石市、七ヶ宿町とし、当時の処理計画人口45,070人で、昭和56年4月に供用を開始しており、平成14年12月に廃止になるまで約20年以上稼働しました。</p> <p>その施設が廃止から20年近くになりますが、白石市福岡八宮にいまだそのままの状態で施設があり、老朽化が進んでいます。</p> <p>先日、他県において、台風、暴風雨等のために鉄塔が倒壊し、人家に多大な影響を及ぼした件がありました。災害列島日本と言われることも久しく、異常気象が続き、どのようなことが起きてもおかしくないというのが現状です。</p> <p>この施設も、窓ガラスが割れ、吹き曝しになり、壁も一部崩落しているなど危険な状況にあると考えます。あわせて、すぐそばに隣接して、白石市有害鳥獣解体場やドローン等ICT技術を扱う東日本ICT推進協議会の建物があります。</p> <p>このような現状を踏まえ、市としてこの施設について今後どのようにお考えなのか、市長の見解を伺います。</p>	市長
		<p>2. 「白石川緑地公園のトイレ」について</p> <p>平成29年第425回定例会の一般質問において、トイレ改築等について、質問をしていますが、改めて伺いをいたします。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
10	1番 大森貴之	<p>(5) 内水ハザードマップ番号3の白石中学校はマップ上、過去に床上浸水を起こした場所であり、住民の方々からも台風等大雨の際には避難所として不適切ではないかとのご意見が寄せられていたとお聞きしております。</p> <p>また、被災状況によって、越河公民館は土砂災害警戒区域内であるため避難所として開設しないとなっておりますので、風水害時には、初動期から開設しないこととすべきと考えますが、市当局のご見解をお伺いします。</p>	市長
		<p>2. 災害用備蓄品について</p> <p>(1) 今回開設された避難所には737名の方が避難されておりますが、それらの方々への災害用備蓄品の配布状況についてお伺いします。</p> <p>(2) 災害用備蓄品は管理上の問題から、避難所ごとに備えられているわけではありません。</p> <p>また、第437回定例会におきまして、「乳児用液体ミルク」について質問させていただいた際、本市では備蓄によらず、「応急生活物資の供給協定協力に関する協定書」に基づき対応するものもあり、必要なものは協定書のリストに加える形で相手方と協議したいとのお回答をいただきました。</p> <p>加えて、協定締結先の話として「在庫状況や本市以外からの要請等も考えられ、要請に応えられない場合もあると伺っている。」ともご答弁いただいております。</p> <p>現在粉ミルクは備蓄しておらないと承知しておりますが、場合によっては協定締結先から液体ミルクが先に提供いただけることも想定すべきであり、乳幼児健診などで活用するなどの観点からも最低限の備蓄を検討すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。</p>	市長
		<p>3. 用水路等について</p> <p>今回の台風19号における内水氾濫の大きな原因は用水路等からの越流ですが、その要因として、土砂崩れを初め、流木、稲わら等の堆積物による側溝詰まりが挙げられます。</p> <p>加えて、長年にわたり側溝底部に堆積した土砂によって通常水位が上昇していたため、雨水を流し切れなかった場所が多くみられました。</p> <p>(1) 市管轄の側溝、用水路等の越流による被害箇所はどの位あったのかお伺いします。</p> <p>(2) 側溝等の堆積物、土砂等の撤去作業はいつ行われているのかお伺いいたします。</p> <p>(3) 防災・減災の観点からも、用水路等の整備及び管理は大変に重要であり、計画的に実施すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。</p>	市長
		<p>4. 緊急連絡方法について</p> <p>(1) 市からの連絡、地域からの情報等は各自治会長を通して行われておりますが、自治会長みずから被災されている場合、情報伝達の遅れや末端まで行き届かないケースも見</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
10	1番 大森貴之	<p>受けられました。 その上からも連絡ラインを複数化することを検討すべきと考えますが、当局のご見解をお伺いします。</p> <p>(2) 個人においては、携帯電話、緊急メール等各種メディアにより市からの情報は提供されてはおりますが、ご高齢の方や機械操作を得手とされない方にとっては厳しい状況があります。 そんな中、東日本大震災の時も非常に有効だったのがラジオ放送でした。停電が続く中、テレビの視聴が困難であったのに対し乾電池等で起動するラジオからもたらされる情報は、現状を知る上で多大の効果を提供してくれました。 ラジオ放送の有効活用を検討すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。</p> <p>(3) 大雨が降る中での広報車による広報活動には限界があると思いますが、復旧活動時においては罹災地域を中心に、広報車による情報提供はかなりの効果があると考えます。ご見解をお伺いします。</p>	市長
		<p>5. 白石スキー場について 白石スキー場に対しまして、市としての支援状況をお伺いいたします。</p> <p>(1) 冬期間における体育教育の一環として市内各小学校においては、スキー教室が実施されておりますが、中学校では実施されておらず、白石高校は男女共学移行以来、開催されておられません。 冬期間における健康推進の上からも、スキー場の活用を当局としても推進すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。</p> <p>(2) 冬季を除く3シーズンの活用に関して、市当局としての支援策についてお伺いします。</p>	市長 教育長